

2024 年度事業報告書

2025 年 6 月 7 日（土）

公益財団法人 日本動物愛護協会

I. 総 括

本協会は 2012 年（平成 24 年）4 月 1 日をもって、内閣府の認可を得て「公益財団法人日本動物愛護協会」へと改組した。

2024 年度も、環境省並びに各自治体、関係団体、企業等のご理解とご協力のもと、多彩な動物愛護事業の推進に努めてきた。

新たにペットの防災に関するイベント等を企画・開催し、業務の拡大に努め、異業種の企業や団体などとの情報交換、連携を更に続き強化させた。

啓発事業については啓発冊子、飼い主との絆を描いたアニメーションを講演・イベント等で幅広く活用をした。

その他にも「地域猫活動」「犬と猫の熱中症対策」の啓発を行い、猫の虐待、トラブルの減少、犬と猫の熱中症の予防に努めた。小さな命の写真展、和歌山電鐵・JR 山手線を使用した飼い主責任の啓発事業は継続的に展開した。

子供たちに対する動物愛護の啓発は、高校生、中学生、小学生に向けた出張授業「動物愛護教室」「命の授業」を行った。

現状継続している、「動物の愛護及び管理に関する法律」の趣旨に基づいた普及啓発事業、災害時動物救援事業、顕彰事業、この 3 項の公益目的事業については毎年業務規模を拡大し充実させてきている。

II. 公益目的事業

1. 「動物の愛護及び管理に関する法律」の趣旨に基づく普及啓発事業

1) 動物の命を守る活動

①電話相談・メール相談

2024 年度も全国から動物に関わる電話やメールによる相談・問合せが多数寄せられ、職員 3 名にて対応した。電話相談は 971 件、メール相談は事務対応が中心の 202 件が寄せられ、内訳は別紙資料のとおりである。長寿表彰や飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用助成金に関して、全国からの問合せが後を絶たなかった。

電話相談ではペットショップやブリーダーからの購入に関してのトラブルや動物愛護団体や譲渡に関するトラブルが多く寄せられた。

②譲渡事業等

4月より月2回（犬猫各1回）、譲渡会を定期開催している。法人会員「株式会社EG Service」より無償会場の提供があり、スムーズに運営できている。この譲渡会で、新しい家族との縁が結ばれた犬猫が多数でている。

また会場では、来場者やボランティアの生の声を聞くことができ、動物たちの置かれた状況等を肌で感じ、貴重な時間となっている。

株式会社レティシアンからの支援フード先を仲介する中で、全国の動物愛護センターや動物愛護団体等と関係・協力体制構築に努めた。

物価高の影響により、ボランティア（個人・団体）の活動は困窮している。本協会に届く個人からの物資寄付（フードや消耗品等）やペットライン株式会社よりペットフード寄付、株式会社フェニックス・アインツェルより消耗品（うんち処理袋やウェットティッシュ等）寄付、株式会社サン・メディカよりサプリメント寄付等を全国のボランティア（個人・団体）へ支援した。

また、株式会社ファミリーマートによる「ねこの日キャンペーン」により、地域猫活動に対し、多くのご支援、ご協力をいただいた。

③普及啓発事業等

2024年度も飼い主に必要な10の条件のポスターを、希望する全国の小中学校、高等学校へ配布した。

光村図書出版発行、中学道徳教科書「きみがいちばんひかるとき」にこのポスターが採用されていることにより、子どもたちに対する動物愛護の啓発に役に立っている。

④飼い主のいない猫の不妊去勢手術費用助成事業

「今を生きている命は大切に、不幸な命は生み出さない」をスローガンに、10年目となる2024年度も飼い主のいない猫を対象とした不妊去勢手術費用助成事業を行った。殺処分される動物の大半が猫のため、不幸な猫を生み出さないためにも、この事業は継続していくことが不可欠である。

2024年度よりオンライン申請を導入し、より申請しやすいよう改善を行った。

また、2024年度も第5弾JSPCA『猫の日』企画「飼い主のいない猫応援キャンペーン」と称し、昨今の物価上昇の中で活動する全国のボランティア（個人・団体含）に向け、日頃JSPCAをご支援してくださる方々の気持ちを支援物資という形に変え、思いを込めて配布した。

⑤他団体・他業種との協力

日本気象協会との協働も7年目となり、2024年度も「ペットの熱中症対策マニュアル2024」を作成し、全国の動物病院を中心に約80,000枚を配布した。また、熱中症予防のポスターも新たに作成しマニュアルと同時に動物病院へ配布を行った。

また、自治体等が設置する委員会・協議会等への委員派遣については、田畑理事長を東京都動物愛護管理審議会へ、廣瀬常任理事・事務局長を東京都動物愛護推進協議会、東京都動物教室及び研修企画選定委員会に派遣した。

AIPO＝動物ID普及推進会議は、動物愛護の公益3団体と（公社）日本獣医師会にて構成し、動物の所有に関する個体識別を明示する措置であるマイクロチップの普及推進に努めた。

2) 人と動物のための社会への提言活動

①動物愛護キャッチコピーコンクール

第 25 回動物愛護キャッチコピーコンクールは、環境省の後援を得て、動物愛護週間中央行事のキーワード、「私たちと動物」と連動させて募集した。

全国から総数 1,107 作品が寄せられた。厳正な審査の結果、環境大臣賞（最優秀賞）には、「パーティだ！今日はキミと 出会った日」が選ばれた。

②動物愛護週間ポスターのデザイン絵画コンクール

動物愛護週間中央行事の一環として、環境省より委託を受けて開催した。「子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物」をテーマに募集し、全国の教育委員会、私立小中高等学校等 2,516 件へ募集案内を発送した結果、340 件の応募があった。厳正な審査のもと、最優秀賞 1 点、優秀賞 5 点を選定した。最優秀作品は、動物愛護週間ポスターとして採用され、環境省より全国の自治体等に配布された。

③各種啓発事業

多くの方に動物愛護週間を知ってもらうため、9 月 16 日～9 月 22 日まで JR 山手線全車両の「まど上チャンネル」を使って、飼い主責任を訴え、広く一般の目に留まるよう啓発を行った。

和歌山電鉄での動物愛護のラッピング電車は、2024 年度も継続して走行させ、地域の住民、子どもたち、観光客への啓発に役立っている。

その他啓発では引き続き、啓発冊子、アニメーションを「命の授業」「動物愛護教室」で使用し子どもたちへの啓発に役立てた。

④情報発信

ホームページでは人と動物の共生社会構築に向けた内容を充実させ、事業系、里親系二つのフェイスブックを活用、また新たにInstagramをスタートさせ、協会情報、啓発、後援事業、新しい家族を探す活動の情報、長寿表彰等を随時発信した。

ペットの熱中症についてもホームページ内に展開している犬や猫の熱中症予防について、ポスターと連動させるなどさらに充実させた。

⑤健全な動物観、生命観のためのメディア対応

本協会の活動内容、地域猫活動について、メディア等に対して発信を行った。

⑥動物愛護週間中央行事・その他イベント出展・後援

動物愛護週間中央行事実行委員会（実行委員長：本協会 田畑理事長）の中心となり、環境省、東京都、台東区、主要な動物愛護団体等が一体となって開催する動物愛護週間中央行事の実行委員会事務局を担い、企画・運営・実施の行事全般にわたる調整ならびに運営を行った。

本年度は、「子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物」をテーマに、屋外行事は 9 月 21 日（土）に駒沢オリンピック公園で屋内行事は 9 月 23 日（月・祝）国立科学博物館で開催した。

屋内行事は、著名な講師陣を招いて、テーマに関連した講演会やパネルディスカッションを行った。

屋外行事は駒沢オリンピック公園で子どもから大人まで楽しめる様々なステージイベントを行い、日本獣医師会主催 2024 動物感謝デー in JAPAN “World Veterinary Day” と合同で開催した。

他団体の開催するイベントも開催するものに関しては協力し、資料の配布などを行い協会の活動をアピールした。

⑦相談事例分析・調査研究

相談電話・メールの統計調査について統計調査を継続している。2024 度も不妊去勢事業の申請者からのアンケート調査を実施、分析を行い、広報誌「動物たち」で公表を行った。

また、活動者が何に困っているのかをリサーチし、支援物資の配布やホームページ内「地域猫相談室」を充実させ、A4 サイズの冊子を完成させ 2025 年度からの全国発送に向け準備を進めた。

3) 命の大切さを知ってもらう活動

①動物愛護講座

地方自治体（杉並区）からの講座依頼受け、講演等を行った。2024 年度から新たな講師陣により、区民の側に立った有意義な講座となった。

②家庭教育、青少年教育

2024 年度も全国の小学校、中学校、動物愛護団体、動物愛護活動家へ、写真展パネルの貸し出し、飼い主に必要な 10 の条件のポスター、啓発冊子を全国の教育委員会、全国の私立小学校・中学校・高等学校、約 2,500 校へ配布した。

また、動物愛護週間に、動物愛護教室として取組んでいる「命の授業」と内容のリンクした図書「かがやけいのち！未来ちゃん」を推薦図書に選定し、協会からのメッセージを加えた特別バージョンを、全国の放課後児童クラブ、5,011 カ所へ献本を行った。

③動物愛護教室・命の授業

総合的な学習の一環として、希望する学生を主な対象として、「動物愛護教室」「命の授業」を開催し、動物たちの置かれている現状や、動物を飼うために必要なことなど動物愛護の基本的な事項について考える機会を提供している。

2024 年度も希望する中学校、高等学校に対し、「動物愛護教室」を開催し、「命の授業」を希望する小学校、中学校・高等学校 19 校、計 3,280 名へ今西常任理事を講師として派遣した。

④会員・寄付者拡大事業

ホームページを中心に本協会の基本方針、動物愛護、里親事業、青少年への動物愛護教育等の取り組みをアピールし入会者の拡大に努めたが、物価高騰、景気の悪化に伴い新規入会者、寄付者共には減少した。しかし、依然として総件数では高水準を維持している。

⑤賛助会員事業・広報誌「動物たち」発行

「JSPCA Special Day」は「防災ワークショップ」と絡めて行う計画を立てており、開催の準備を進めている。

広報誌「動物たち」は滞りなく年4回発行し、事務局が編集部となり動物に関する旬な話題、協会の活動内容などを読者に伝え、内容を充実させた。

2. 災害時動物救援事業

地震・噴火・台風等の自然災害発生に際しては、被災地の動物愛護管理行政部門並びに関係団体と連携を図り、動物の救援活動を実施する体制を整えた。

併せて、ペットフード、ペット用品等の動物のケアに必要な物資については(一社)ペットフード協会、(一社)日本ペット用品工業会、(一社)全国ペットフード・用品卸商協会、(一社)日本ペットサロン協会で構成される「ペット災害支援協議会」と連携を取りながら支援要請に応えることとした。

2024年度より本協会主催「防災ワークショップ・災害からペットを守る」をスタートさせ、(一財)NHK 財団と協力し、番組で人気のチョコちゃんを登場させ、幅広い年代への啓発を行った。2024年度はNHK放送技術研究所(東京都)、つくば市立ノバホールにて開催した。今後は全国で年4カ所での開催を計画している。

3. 顕彰事業

①長寿動物表彰

長寿表彰は、飼い主からの申請に基づき、長寿動物として無料で表彰し、飼い犬・飼い猫の写真入りの賞状を贈呈する。

表彰を受けた飼い主からは多数感謝の言葉、ご寄付を頂き、その後、会員へ移行する方も多い。表彰月末にはフェイスブックで紹介し、広報誌「動物たち」4月号では年間の表彰動物一覧を掲載し、大変好評を得ている。

2024度は、犬1,193頭、猫676頭、合計1,869頭の表彰を行った。最高年齢は表彰時、犬は21歳、猫は24歳であった。猫は全体の85%が雑種(ミックス)に対し、犬はバラエティに富んでいる。

犬猫が長寿を迎えるということは、動物たちが適切に飼養されていることの証ととらえることができ、人と動物との共生社会、動物の福祉が適切に進んでいる裏付けともいえる。この顕彰を続けていくことにより、適正飼養・終生飼養を広く啓発していく。

②動物愛護表彰

2024年度の該当はなし。

Ⅲ. 法人運営

会議開催

2024年度における会議の開催は、通常理事会2回、臨時理事会2回(内1回は書面による開催)、定時評議員会1回、監査会1回であった。

また、本協会の円滑な運営を図るため、常務会(執行役員会)は14回開催した。